

文京区立図書館一般図書選書基準

S61.3.26 作成
H16.10.28 改訂
H21.3.31 改訂
R2.4.1 改訂

目 次

I	基本的な考え方	P 2
II	資料選択基準—どんな資料を収集するか—	2
III	資料選択の具体的留意点	3
IV	分野別資料選択基準—どんな点に留意するか—	4
	参考図書	4
	文庫・新書	5
	雑誌	5
	新聞	6
	漫画	6
	地域資料	6
	0類～9類	6
V	収集対象外とする資料	1 2
VI	あとがき	1 2
VII	付属資料 1 中央館的資料の各館担当分野一覧表	

I 基本的な考え方

1. 図書館は、区民が知識や情報を入手し調査・研究を行い文化に触れ問題解決を支援することが責務である。そのために「図書館法」の精神に基づき、「図書館の自由に関する宣言」及び「図書館員の倫理綱領」の立場に立って、下記の方針のもとに収集を行う。
 - ①利用者の「知る自由」を保障し、全ての利用者の立場に立って各分野にわたる幅広く豊富な収集に心がける。
 - ②図書館自らの責任において、自由な立場であらゆる資料に対して偏見をもつことなく、公平に収集する。
 - ③多様な読書要求を保障していくために、基本的な資料から専門的な資料まで収集する。
 - ④地域住民の現にある要求はもとより、潜在的な要求も考慮し、将来的に学術的、教育的、社会的に価値が高く、利用頻度が高いと予想される資料を収集する。
 - ⑤これらの方針・基準は、寄贈資料、非売品資料を含む全出版物を対象とする。
2. 文京区立図書館は、大規模館を置かず、中・小規模の図書館を区内のほとんどの地域から1km圏内に配置している。利用者の他種多様な要求に応え得る蔵書構成を構築するために、各図書館の地域特性を鑑みて専門的資料の収集の役割分担を定め、担当館で集中的に収集する分担収集を行う。
3. 大規模館を中央館として位置付けて図書館運営を行っている自治体においては、専門的資料、全集類等は中央館で所蔵し、地域館の利用者サービスを補完する形をとっている。文京区は上記2の通り分担収集を行っているため、本来中心となる大規模館で所蔵すべき資料を中央館的資料と定義し、文京区立図書館全体としての観点から選定を行い、所蔵館の調整等を行う。

II 資料選択基準—どんな資料を収集するか—

- 1 中央館的資料の選択
 - (1) 中央館的資料の収集は決して利用者の要望とかけ離れたものであってはならない。
 - (2) 各館の利用者サービスを補完し、援助する立場で収集する。
 - (3) 現在の学問水準、出版水準等を十分に把握し、新刊本だけでなく既刊本も積極的に収集する。
 - (4) 中央館的資料として検討すべき主な資料は具体的には次の通り
 - ①全集・叢書等 ②大学専門課程以上の内容の図書（作品研究、原典研究書等）
 - ③高価本 ④参考図書 ⑤年鑑・統計資料 ⑥利用者から要望のあった専門書・利用希少資料等 ⑦教養関連書など所蔵調整が必要とされる資料 ⑧稀書

- 2 基本的な資料を選択する。
 - (1) 利用者の多種多様な要求に応えられるよう、参考図書は出来る限り豊富に収集する。
 - (2) あらゆる分野の基礎的、入門的図書を中心に幅広く収集する。
- 3 暮らしに役立つ資料を選択する。

具体的には、①一般教養書 ②日常生活に役立つ図書 ③趣味、娯楽、レクリエーションに役立つ図書 ④仕事に役立つ図書 ⑤話題になった大きな事件や最近の情勢について書かれた図書 といった資料である。
- 4 多様な対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を、偏見をもつことなく公平に収集する。
- 5 思想的、宗教的及び党派等の立場にとらわれることなく公平かつ客観的に収集する。
- 6 個人・組織・団体からの圧力や干渉によって収集の自由を放棄かつ自己規制しない。

Ⅲ 資料選択の具体的留意点—どんな点に留意するか—

- 1 内容・種類
 - (1) 全集本は、区内他館の蔵書を考慮して網羅的に収集する。全集を選択する際には、①収録範囲 ②全文収録、抄録 ③目次、索引、参考文献 ④解説、付属資料 について注意する。月報についても収集の対象とする。
 - (2) 翻訳書、要約書、翻案書、抄訳書等は、内容に注意して使いやすいものを選択する。
 - (3) 目次、索引、参考文献等が、出来るだけ整えられたものを選択する。
 - (4) 高度な専門書、高価本については、中央館的資料の分担に基づき、利用頻度が高いと予想され、また、資料として価値が高いと認められるものを各分野担当館が収集する。「中央館的資料各館担当分野一覧」(付属資料1)
 - (5) 類似的なものが多量に出版されている実用書、娯楽書は、分かりやすく、実用性の高いものを選択する。
 - (6) 学習参考書、問題集は、収集能力上に限りがあるので原則として選定しない。ただし、試験や資格の概要を知ることができる資料についてはその限りではない。
 - (7) 外国語資料については、英語など主要な外国語で出版された資料を中心に文学、芸術、各分野で話題になったものやガイドブック、実用書等及び外国語で翻訳された日本に関する図書を収集する。
- 2 形態
 - (1) 製本のしっかりした資料を選ぶ。
 - (2) 切り取りや書き込み式を前提とするもの又は図書等の形態が著しく奇抜であるか極小である等、その使用方法や資料の形態等により公立図書館における共同利

用に適さないもの若しくは図書館資料として扱い難いものは選定しない。内容が同様のもので補う。

- (3) 大活字本は、文学を中心とした出版になるため限られた分野となっているが積極的に収集していく。
- (4) 電子書籍については、文京区として図書館システムに対応する方法や利用者への提供方法・資料選定・保存方法等課題も多いが慎重かつ積極的に検討していくことが必要である。

3 受入れ

- (1) 新刊見計らいによる選定は、現物を直接評価でき、いち早く貸出せるなどの長所がある。しかし、流通に乗らない本は、配送されないなどの欠点もあるので、漏れのないように注意して選択する。
- (2) 継続本は、欠本のないように注意する。
- (3) 絶版本・欠本の収集には、通常の流通機構だけでなく、古書の活用も考慮する。
- (4) 資料の収集については、寄贈や配付の資料及び保管転換等も積極的に活用する。

4 版

- (1) 増補版・改訂版は、増補量、修正量に注意して更新に努める。しかし、新装版のように単に刷を改めただけの場合があるので注意する。

5 その他

- (1) 書評に取り上げられた受賞作品については、検討したうえで収集に努める。また、ベストセラーというだけでは判断せず、それぞれの内容を評価して選択する。
- (2) 利用の動向を考慮し、利用頻度の高い本は複本で揃える。
- (3) リクエスト本は、利用者の要求に積極的に応えることを基本とし、蔵書として適当なものは収集する。

IV 分野別資料選択基準—分野別資料はどんな点に留意するか—

<参考図書>

参考図書とは特定の知識、情報について調べるための資料であり、レファレンスワークを行ううえで重要な資料である。そのため、慎重に選書することが求められている。

日常のレファレンスに対応できる蔵書構成を基本とし、区全体としては網羅的に収集出来るように調整を行う。

参考図書は求められる情報を迅速、的確に検索でき、内容が信頼できるものでなければならない。そのために、次のことに注意して選択する。

- 1 著者、編者が専門家で、その内容について適任者であること。
- 2 業績のある出版社であること。
- 3 新版・増補版・改訂版は、増補量・修正量に注意して、大幅に改定されたものを選択する。

- 4 内容が正確で収録範囲の広いものであること。
- 5 参考文献、索引がついていること。
- 6 図版、写真などが適切で見やすいこと。
- 7 対象は、一般向きのものを基本とし、必要に応じて専門的なものを収集していく。
- 8 類書と対比して特色あるものを選択する。
- 9 百科事典などの事典類の収集にあたっては、配列（主題別、50音順、アルファベット順）、項目（大項目式、中項目式、小項目式）にも注意して使いやすいものを選択する。
- 10 百科事典、国語辞典など利用頻度の高い参考図書は、内容を比較検討出来るように数種類整備しておく。

<文庫・新書>

- 1 携帯に便利で利用頻度が高いため、積極的に収集する。
- 2 文庫本や新書の種類の増加に対応できるように、各館で調整しタイトルを増やすようにする。
- 3 文庫本の出版量の増加、内容の多様化等の状況があるので、全てを揃えるだけでなく、それぞれの本の内容も評価して選択する。
- 4 小型・軽装本であるため、亡失や汚破損しやすいので、積極的な更新が望ましい。

<雑誌>

雑誌は、最新情報を得る上で最も適格な紙媒体であるため、利用者の要望に応えられるものを幅広く収集する。この要望に応えるため、次のことに留意する。

- 1 雑誌の特性を生かし、単行本で対応出来ないものを積極的に収集する。
- 2 各分野満遍なく収集し、一主題に偏らないように心掛ける。
- 3 読者層を考慮し、各層の要望に応えられるように努力する。
- 4 各館のサービスエリアの地域性を生かした特色のある収集を心掛ける。
- 5 利用頻度が低い同一テーマの雑誌は、全館で調整して多くのタイトルを効率的に収集する。
- 6 利用の多い雑誌は、複本の購入も検討し、速やかに提供できるようにする。
- 7 各館の中央館的資料の分担も考慮して収集する。
- 8 創刊誌については、その都度検討し年度途中でも収集するよう柔軟な対応をとる。
- 9 寄贈雑誌は、以上の基準に沿って選択する。

<新聞>

- 1 日本語新聞
(1) 児童・青少年向きのものも含めて主要な全国紙および東京地方紙を中心に収集する。

- (2) 専門紙・業界紙等は代表的なものを限定的に収集する。
- (3) 縮刷版は主要な新聞の縮刷版を収集し、欠本補充にも留意する。

2 外国語新聞

国内の代表紙および区内在住の外国人の状況も踏まえて収集する。

<漫画>

漫画は、新しい表現手段としての位置づけが評価されている。また、図書館への要望も次第に高まっている。しかし、内容、形態、収集能力上からも限界があるため、次のことに留意し各館の状況に応じて選択収集する。

- 1 評価の定まった作品を中心に収集する。
- 2 独自の表現手段としての漫画の特質を十分に生かした作品を選択する。
- 3 漫画を単なる説明の手段としているものは、主題になっている分類の選択基準により選択する。

<地域資料>

地域資料の収集については別途、「文京区立図書館地域資料収集・保存マニュアル」に定める。

<0類～9類>

[0類 総記]

- 1 情報科学関係書は、最新の情報が求められるため、時代の動向に注意を払い収集する。また、出版点数も多いため、情報工学部門とも調整しながら選択する。
 - (1) コンピューター関係の実用書は、機種の種類も考慮して選択する。
- 2 図書館学関係書は、図書館運営にも活用出来るよう系統立てて収集する。
- 3 各種書誌・目録は、レファレンスの際の基礎資料となるので積極的に収集する。類縁機関の目録等も収集の対象とし、高価なものについては全館で調整のうえ、出来る限り揃える。
 - (1) 書誌については、専門の出版社の動向にも注目し、利用者の要求に応じられるように収集する。
- 4 年鑑は、分担収集により、計画的に継続して収集する。
- 5 各種団体、研究機関関係書は、図書館の類縁機関によるものを中心に収集する。
 - (1) 博物館関係書は、図書館とも関わりが深いので積極的に収集する。

[1類 哲学]

- 1 哲学・宗教・心理学関係書は、古典書の収集に努めると共に現代の学問の動向に注意を払い収集に努める。

- 2 現代哲学の動向や見過ごされやすい諸国の哲学者に関する資料は、出来るだけ収集する。
- 3 心霊研究、易占いについては、古典と入門的解説書を中心に収集し、興味本位のものとなるべく収集しない。
- 4 人生訓、教訓類の資料は類書が多いので、内容が重ならないように、注意して収集する。
- 5 宗教家については、一定の人物に出版が偏りがちなので、類書の多いものについては、特に研究の優れたもののみを選択する。
- 6 宗教関係書は、各派の基本的解説書の収集に努め、一党一派に偏らないようにする。また、小宗教、新興宗教にも注意を払う。但し、布教活動に使用される図書は、必要止むを得ない場合のみ選択する。

〔2類 歴史〕

- 1 通史、世界史は、歴史の変化が理解出来るように、全体を網羅しているものを選択する。
- 2 日本史は、利用者の要求も幅広く出版点数も多いので慎重に選択する。また、地域資料との関連を考慮して選択していく。
- 3 各国史・各地方史は、偏ることなく網羅的に収集する。特に欧米やアジアなど日本と関係のある国の歴史書については、出版点数も多いが、それ以外の中南米・アフリカ・オセアニア等の歴史書は少ないので積極的に収集する。
- 4 史料集については、内容が正確で将来にわたり利用の期待できるものを収集する。
- 5 年表・地図・図版等は、正確で見やすいものを利用にあわせて各種類収集する。
- 6 伝記は、被伝者の業績が綿密な調査研究に基づいて記述されているものを選択する。知名度の高い被伝者だけでなく、網羅的に収集する。
- 7 旅行ガイドブックは、蔵書の更新に努める。
- 8 地理、地誌は、出版点数が少ないので積極的に収集する。日本の地理・地誌に関しては、地方出版物にも注意して収集する。
- 9 紀行は、各国・各地域の主題により出版が偏るので網羅的に収集する。

〔3類 社会科学〕

- 1 出版点数が多く、類書が多い分野であるため、内容を慎重に検討して収集する。
- 2 各国の文化、社会情勢を扱った資料は、出来る限り幅広く、内容の新しいものを提供出来るように収集する。
- 3 政治学の関係書は、古典・基本書から政治史や最新の情勢まで幅広く収集する。また、どのような立場の資料に対しても偏見をもつことなく公平に収集する。行政・地方自治関係は図書に限らず、政府・自治体発行の冊子等も収集の対象とし、新しい情報の提供に努める。

- 4 法律学書は、利用者の要求も様々なため、実用書から専門書まで幅広く収集する。また、学説や法解釈の違いなど各々の観点から捉えた資料を揃えるように努める。
 - (1) 加除式の法令集・判例集は、計画的に収集する。
 - (2) 旧法令に関する資料、外国の法令に関する資料は、基本的なものを収集する。
 - (3) 法令の改正に対応して常に最新のものを揃えておく。
- 5 経済学書は、諸学派の代表作等、基本的な資料から最新の事情まで幅広く収集する。経済学関係書は、著しく出版点数が多く、類書も多いため内容を慎重に検討する。実用書に傾きやすい分野であるが基本書も揃える。
- 6 財政関係書は、基本書と共に、政府・自治体発行の出版物等に注意を払い、最新の情勢が分かるように収集する。
- 7 統計類は、出来る限り多種類の統計事項を網羅出来るように資料を研究し、計画的、継続的に収集する。
- 8 税金・年金・各種保険等の関係書は、生活に密着した資料なので分かりやすいものを豊富に、また、改正に対応して常に最新のものを収集する。
- 9 社会問題に関する資料は、主題が幅広い分野であり出版点数も多いため、各々の分野の入門書、古典等の基本書を洩れのないように揃える。また、日本人論・女性論といった類書の多い主題では蔵書のバランスを考慮して収集する。
- 10 教育学書は、子供をめぐる状況に注意し、生活に結びついた資料の収集に心がける。また、教育論・概説書・古典等の基本的文献については洩れのないように収集する。
- 11 民俗学関係書は、出版点数が多いため類書について比較検討し、良く研究されているものを選択する。レファレンス資料となることが多いので、索引等の整備のされた利用しやすいものを心掛け収集する。地方出版物にも注意し幅広く収集する。
- 12 国防・軍事関係書は、様々な意見が対立している分野であるため、あらゆる立場、考え方の資料を偏りなく収集する。また、現在の最新の情勢も分かるように揃える。

[4類 自然科学]

- 1 自然科学の分野では、基本的な資料を中心に積極的に収集する。また、特に最新の情報が求められるため、蔵書の更新に努める。
- 2 物理、科学、数学等に関する資料は講義形式やテキスト類も多いため、内容に注意して選択する。
- 3 天文学・宇宙科学は、エッセイや写真集等様々な形で出版されているため、内容や装丁に注意して選択する。
- 4 気象や地震に関する資料は、最新の情報に基づいて、内容が正確で分かりやすいものを収集する。
- 5 植物や動物に関する資料は、写真や図版等が適切で、内容が正確なものを収集する。
- 6 医学書は、科学的根拠のないものなどもあるので、内容に注意して選択する。また、

内容が特に高度で専門的過ぎるものは収集しない。

- (1) 健康づくりに関する資料は、見やすく実践しやすいものをバランスよく収集する。
- (2) 病気・治療法に関する資料は、偏らないように網羅的に収集する。

〔5類 技術〕

- 1 近年の技術革新は目ざましいものがあるため、基本的な資料はもとより、新しい技術にも対応するように選択する。
- 2 土木・道路・河川関係は、入門書と共に高度になり過ぎない程度の専門書まで選択する。公害問題は、代表的な公害事件や各種の公害について洩れなく選択し、最近の状況も分かるように収集する。
- 3 建築関係は、技術面も充実させるように留意しながら、入門書から専門書まで選択する。また、実生活との関わりも大きいので、最新の情報が分かる住宅建築・設計・意匠関係の資料も幅広く収集する。
- 4 機械工学・電気工学は、特に技術革新や進歩の激しい分野のため、新しい理論や技術の資料に偏りのないように選択し、最新の情報が分かるようにすると共に、内容の正確なものを選択する。
 - (1) 自動車の修理・免許の取り方等の実用書も、洩れのないように収集する。
- 5 海洋工学・船舶工学・金属工学・鉱山工学・化学工学等の分野は、一般の出版流通にあまりのらないので、出版状況に注意して選択する。また、入門書ばかりでなく、適度な専門書も幅広く揃えておく。
- 6 製造工業は、日常生活に結びついた製品が多いので、利用度の高いものから各分野に渡って洩れのないように収集する。
- 7 家政学の本は、生活実用書として常に利用の多い部門である。また、実用書のみ偏りやすい分野であるが、基本的な専門書等も揃える。
 - (1) 衣服・編み物等のファッションの分野は流行もあるので、最新の資料をいち早く提供できるように収集する。
 - (2) 裁縫・手芸・料理の本は、分かりやすく写真や図等が豊富なものを選択する。
 - (3) 家庭医学・育児等は、著者や出版社について定評のあるものを選択し、諸説のあるものについては一説に偏らないように収集する。

〔6類 産業〕

- 1 特定の主題に利用が偏る分野であるため、基本的な資料を中心に、蔵書を増やすよう努力する。
- 2 農業・水産業・林業等の政策に関する資料は、偏ることなく公平に収集していくと共に、基本的技術に関する資料も収集していく。
- 3 趣味の本（園芸、ペットの飼い方、鉄道・切手等）は、出版点数も多く利用頻度も高

いため、実用的で見やすいものを選択する。

- 4 社会の動向によって変化の目ざましい、貿易・マーケティング・通信事業等の主題の資料は、これからの利用が期待できるので積極的に収集していく。
- 5 地場産業の関係書は、地域資料との兼ね合いを考慮したうえで収集に努める。

〔7類 芸術〕

- 1 芸術理論は、学術的、社会的に価値がある古典を中心に収集するが、定評のある著者にも注意を払う。
- 2 芸術史は、西洋、東洋、日本を中心に諸国、個人別の資料についても収集する。
- 3 技術書は、素材別、道具別に網羅的に収集し、基本書を中心に選択する。
- 4 美術全集、画集、写真集等は、個人が収集するには限界があり、活字資料と異なった効果的な資料なので、総合的な観点から編集の優れたものを選択する。特に写真の再現の良好なものを選択する。
- 5 写真集は、印刷の美しさだけにとらわれず、表現的確かさ、記録性を重視し、製本のしっかりしたものを選ぶ。
- 6 文京区の地場産業である印刷関係の資料は、出版点数が限られているので、洩れのないように出版状況に注意を払いながら収集する。
- 7 音楽家の研究書は、偏ることなく幅広く収集する。
- 8 楽譜の収集にあたっては、著名な作品や話題性に留意し限定的に収集する。
- 9 映画・演劇等の資料は、基本書に加え時事性・話題性のあるものを積極的に収集していく。
- 10 スポーツ関係書は、各種洩れなく収集する。なお、時代の流行を無視することなく、要求が集中するようなものは類書を揃える。
- 11 諸芸・娯楽書は、解説が分かりやすく、利用者等の要求の高いものから収集していくが、流派を考慮し、歴史から理論書まで幅広く収集する。
- 12 ルールブックは、常に最新のものを揃えておく。

〔8類 言語〕

- 1 各国語の辞書は、多くの言語を整備する。利用頻度の高い英語等の辞書は複本で揃える。
- 2 外国語については、各国語とも洩れないようにし、文法、語法、解釈、作文、会話等を中心に解説の分かりやすいものを収集する。
- 3 日本語に関する資料は、歴史・方言等の専門書から手紙の書き方等の実用的なものまで幅広く収集する。
- 4 言語学・記号論に関する資料は、哲学の分野との関連も考慮しながら収集する。
- 5 視聴覚資料の「語学資料」とも併用出来るよう考慮して収集する。

〔9類 文学〕

- 1 日本及び各国の文学作品について幅広く収集する。
- 2 作家・作品研究書は、知名度の高い作家・作品に限らず、網羅的に収集する。
- 3 古典文学
 - (1) 古典文学作品は、校本や校注により内容解釈に違いがあるため、比較できるよう豊富に収集する。
 - (2) 古典文学研究書は、対象となる時代によって研究ジャンルに偏りがあるため注意して収集する。
- 4 外国文学
 - (1) 各国文学とも、基本となる文学史を揃え、それを参考にしながら古典作品の収集に努める。同時に主要な作家の研究書も収集していく。
 - (2) 「東洋文学」「その他のゲルマン文学」等や「その他の諸文学」で一括される各国に関しては、注意して出来る限り多く収集する。
 - (3) 文学及び文学研究の動向に注意を払い、翻訳書が出版された折に、内容、文学的価値等を考慮したうえで収集に努める。
 - (4) 翻訳の良否にも留意し、同一作品であっても定評のあるものは、複数の翻訳者の作品を収集する。
- 5 文学の各全集（文学全集・個人全集）は、出版社、編集者、翻訳者により内容が左右されるため、全館で調整を行い特に網羅的に収集する。
 - (1) 文学全集は、年代別、地域別、ジャンル別に総タイトル数を増やすようにする。特に、世界文学全集はそれにしか収録されていない作品があるので注意する。
 - (2) 個人全集・選集は、小説・戯曲・詩歌等のジャンルを問わず、古典的に評価が定着した作家、ポピュラーな作家のものを洩らさず収集する。
 - (3) 全集の1セットを確保してある場合、他館では、その一部のみを揃えるような柔軟な選択も考慮する。
- 6 戯曲・詩歌については、利用の動向を考慮し基本的なものを収集する。
- 7 エッセイは、文学的な評価から身近の感想まで幅広い内容が含まれるので、積極的に収集する。
- 8 紀行・ルポルタージュは、事実に対する視点が明確で、著者による調査が行き届いたものを選択する。
- 9 郷土にゆかりのある作家の個人全集、作家、作品研究書については、特に網羅的に収集する。

〔9類 小説〕

- 1 純文学・大衆小説は、利用者の要求を考慮しバランス良く収集する。
- 2 文学賞受賞作品は、一定の評価を受けたものであるので選択の際の手掛かりになる。

- 3 一過性の作品については、利用の動向を配慮し内容を検討したうえで選択する。
- 4 利用頻度が特に高いため、適宜複本購入、買換えをし、利用者の要求に積極的に対応する。

V 収集対象外とする資料

- 1 暴力や犯罪を容認したり、残虐性を助長する資料、人権への配慮に欠ける資料及び性的表現が過激な資料は選定しない。
- 2 特定の機関や団体の宣伝となる資料は選定しない。
- 3 特定の機関や団体及び個人を誹謗中傷するような資料は選定しない。
- 4 ゲームの攻略本やゲームブックその他これに類するものは選定しない。
- 5 授業で用いる翻訳本、リーダー・サブリーダーの類（学校又は自習のために利用される抜粋や翻案、注書、単語訳等により学習しやすいよう編集されたテキスト類をいう。）、その他入学試験・資格試験の受験参考書類、学校の授業のための参考書に類するものは選定しない。
- 6 アニメやタレントのファンブック等、特定の嗜好に偏り利用が限定的となる資料は選定しない。
- 7 図書として出版されているが、付属しているCD及びDVD等の媒体記録が主体であり、図書単体では利用が困難な資料は選定しない。ただし、言語関連資料については、視聴覚資料が付属するものであっても、必要に応じて収集するよう留意すること。

VI あとがき

大量に流通している出版点数の中から、利用者にとって必要とされる資料を選択するのは図書館員の重要な役割である。従って、成文化された選書基準は図書館活動において基本となる指針であり、職員が共通の考え方に立って選書を行うために活用されなければならない。また、広く利用者に支持される選書を目指すものである。

但し、選書基準は常に絶対のものではなく、一定の年限において見直しが行われなければならない。

VII 付属資料 1 中央館的資料の各館担当分野一覧表

中央館的資料の各館担当分野一覧表			
0 総記 : General works (図書館、書誌学、百科事典、逐次刊行物、叢書)			5 技術 : Technology (工学、工業、家政学)
000 総記	⇒ 千石図書館	500 技術、工学、工業	⇒ 水道端図書館
010 図書館		510 建設工学、土木工学	
020 図書、書誌学		520 建築学	
030 百科事典		530 機械工学、原子力工学	
040 一般論文、講演集		540 電気工学、電子工学	
050 逐次刊行物、年鑑		550 海洋工学、船舶工学、兵器	
060 学会、団体、研究調査機関		560 金属工学、鉱山工学	
070 ジャーナリズム、新聞		570 化学工業	
080 叢書、全集		580 製造工業	
090		590 家政学、生活科学	
1 哲学 : Philosophy (哲学、心理学、倫理学、宗教)			6 産業 : Industry (農林業、水産業、商業、交通)
100 哲学	⇒ 目白台図書館	600 産業	⇒ 真砂中央図書館
110 哲学各論		610 農業	
120 東洋思想		620 園芸、造園	
130 西洋思想		630 蚕糸業	
140 心理学		640 畜産業、獣医学	
150 倫理学		650 林業	
160 宗教		660 水産業	
170 神道		670 商業	
180 仏教		680 運輸、交通	
190 キリスト教		690 通信事業	
2 歴史 : History (歴史、伝記、地理)			7 芸術 : The arts (美術、音楽、演劇、体育、諸芸、娯楽)
200 歴史	⇒ 真砂中央図書館	700 芸術	⇒ 目白台図書館
210 日本史		710 彫刻	
220 アジア史、東洋史		720 絵画、書道	
230 ヨーロッパ史、西洋史		730 版画	
240 アフリカ史		750 工芸	
250 北アメリカ史		790 諸芸、娯楽	
260 南アメリカ史		740 写真、印刷	
270 オセアニア史		760 音楽、舞踊	
280 伝記		770 演劇、映画	
290 地理、地誌、紀行		780 スポーツ、体育	
3 社会科学 : Social sciences (政治、法律、経済、統計、社会、教育、風俗習慣、国防)			8 言語 : Language
300 社会科学	⇒ 真砂中央図書館	800 言語	⇒ 本駒込図書館
310 政治		810 日本語	
330 経済		820 中国語、東洋の諸言語	
340 財政		830 英語	
350 統計		840 ドイツ語	
390 国防、軍事	850 フランス語		
320 法律	⇒ 小石川図書館	860 スペイン語	
370 教育	⇒ 水道端図書館	870 イタリア語	
360 社会	⇒ 本駒込図書館	880 ロシア語	
380 風俗習慣		890 その他の諸言語	
4 自然科学 : Natural sciences (数学、理学、医学)			9 文学 : Literature
400 自然科学	⇒ 本駒込図書館	900 文学	⇒ 千石図書館
410 数学		910 日本文学	⇒ 本郷図書館・小石川図書館
420 物理学		920 中国文学、東洋文学	⇒ 千石図書館
430 化学		930 英米文学	
440 天文学、宇宙科学		940 ドイツ文学	
450 地球科学、地学、地質学		950 フランス文学	
460 生物化学、一般生物学		960 スペイン文学	
470 植物学		970 イタリア文学	
480 動物学		980 ロシア文学	
490 医学、薬学		990 その他の諸文学	
		K 地域資料	⇒ 真砂中央図書館